

後閑小学校 保護者向け説明会 会議録

- 日 時 令和7年12月4日（木）18：00～19：10
- 場 所 後閑小学校多目的ホール
- 参加者 保護者 8名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 4名

1 後閑小学校の今後の方向性について

事務局： 資料に基づき説明

2 質疑・応答

保護者： シーバスを使うじゃないですか。この前、胸上小学校の子がシーバスに乗って玉野市立図書館に行こうとしたが、1時間程遅れたので結局行けなかったっていう話を保護者から聞いたんですけども、炎天下の中、2年生や3年生の子が、屋根がない中ずっと何十分も何時間もバスを待ち続けるっていうのはどうなのかっていうのと、その対策をこの1年間の中でしてくださっていたのかをお聞きしたいです。

事務局： 今日初めて説明会をさせていただく中で、こういった形がいいのかというところがあります。基本的には路線バスの活用を検討させていただいているところですが、実際には、そういう心配に対して、具体的にこういった対策が打てるか、ご意見をお聞きしながら、改めて事務局で整理させていただこうと思ってます。

保護者： この1年間でできるっていうことですね。

事務局： そうですね。今の段階で具体的な内容を申し上げることは困難ではありますが、今後どこまで対応できるかについては随時お伝えさせていただきます。

保護者： バスがどこまで来るとかも学校で分かたりするとか、そういう情報共有っていうのは保護者とバス会社でしてくださいという感じになりますか。

事務局： バスの運行システムのお尋ねだと思います。バス事業者が導入しているものはあるかもしれませんが、学校の先生方が運行状況などを把握できるかどうかについては確認できていません。ただ、そういった要望があるということはバス会社等にも伝えて、実施可能かどうか確認していきたいと思います。

保護者： 後閑小では下校する時に、1年生だと先生が公園まで一緒について歩いて帰る感じなのですが、編入して胸上小か田井小になったときには、バス停をどこで降りるかとか安全な場所に停めてもらえるなど、どのような流れで帰っ

て来るのか、お考えはあるんですか。

事務局： 基本的に、路線バスを走らせるということになりますと、バス停をそれぞれ設定してありますが、バス停自体は安全が確保された上で設定されると思います。小学校でありますと、見守りの関係があったりしますので、再編後にバス通学となった場合に現在ご協力いただいている地域の方に、例えばバス停まで見守りしていただくことへの働きかけや、必要であれば地域の危険箇所をよくご存じの保護者へのご協力をお願いなどを行っていきたいと考えています。

保護者： 田井小学校を選択した場合、シーバスと書いてあるんですけど、6km 以内だった場合は自転車ってということになるんですか。

事務局： それは中学校についてですね。今、中学校の再編を進めていますが、基本的には、自転車通学の距離としては 6km 以内ということになります。宇野中学校から 6km 以内ということになりますと、自転車通学となります。

保護者： 自転車通学になった場合、危険箇所に当たるところが何カ所かあるんですけど、そういった場合は自転車道の整備というのは考えていらっしゃるんですか。

事務局： どういった現状でどこまでの整備ができるかということは、お答えできかねますけれども、実際の危険箇所は、再編までに、保護者連絡ツールで投げかけをした上で、把握して、例えば、道路でありますと国や県、市に要望しています。例えば市ですとすぐに道路管理者であります土木課に相談に行ったり、県のほうでありますと県に要望書の提出するとかそういった対策はすぐさせていただく予定でございます。

保護者： 既に危険箇所がわかっている場合は、ここだということをお教えしたらいいということですか。

事務局： そうですね。こちらの方に情報提供いただければ、でき得る対応を検討したいと思います。

保護者： 提供するツールといいますか、どういう感じでお教えしたらいいですか。

事務局： どういう形で、教えていただいても構いませんけれども、例えば説明会資料の表紙に保護者質問フォームがあるので、こちら自由記載になっていますので、そちらのほうで情報提供をいただければ、どう対応していくか検討させ

ていただきます。

保護者： 対応していただいた内容の確認もできるんですか。

事務局： 基本的には、編入までに様々な内容を決めていく必要があります。その対応については、随時情報提供はさせていただく予定です。

保護者： そのときにまた質問があれば、その場で発言をしたりすればよいですか。

事務局： そうですね。そういったご要望をいただければ、対応しますので、よろしくお願いします。

保護者： 鉾立の方たちはバスで行ったときに、乗っているよ乗ってないよっていう情報が保護者の携帯に通知がくるっていうのをお聞きしたんですけど、シーバスの場合、何かしらの対応をすると以前聞いたが、それは結局どうなったのかをお聞きしたいです。

事務局： 安否に対するシステムについては、具体的には業者の方と打ち合わせをさせていただいて、こういった形でお知らせできるのかっていう方向は今後考えさせていただくということになります。

保護者： 1年間の間にしっかりと出来るっていうことでいいんですか。

事務局： それはもちろん、今回のご意見を踏まえてどういう対応ができるかっていうのを業者のほうとさせていただこうと思います。

保護者： 学童の関係は、なにかシーバスとかでるんですか。学童の帰りはシーバスとかシータクとかを使って帰れるようにはならないんですかね。鉾立と一緒に。

事務局： 鉾立小が休校になったときに、その対応として帰りの手段、シーバスとかシータクがあるということで、その通学路の補助というのはさせていただいてるんですけど、今回、放課後児童クラブがこういった形になるかっていうことを一緒に考えていく形になります。ただ、鉾立もそうなんですけれども、17時じゃなくて18時に延長してる場合についてはお迎えに来てくださっていうのは同じ取り扱いにしますので、そのあたりはご了承いただければと思います。

保護者： 原則っていうことは、やってる子もいるっていうことですか。

事務局： いえ、必ず迎えに来てくださいということをお願いしてます。延長の場合はお願いしてます。

保護者： 田井小学校には近くにバス停があるんですか。後閑小の付近からでているバスで田井小前のバス停は現時点であるんでしょうか。

事務局： 放課後児童クラブの帰りの関係があって一応バス停とかの時刻も確認させていただいてまして、田井小学校の南側にガソリンスタンドがあるんです。あそこあたりに清水橋のバス停っていうのがあるんです。黄色い中型のバスっていうのがあそこを通過してパワーエックス工場がある南側のほうをずっと通っている。さらに、わたなべ生鮮館の前を通過して昔の勤労青少年ホーム、福祉センターがあった前を通過していくようなルートがあります。それともう1つがちょっと時間が違うんですけど、田井の郵便局、田井小学校からいうと、北側になるんですけど、そこから旧中銀の前とか生協の前を通過していくという2ルートあります。そちら側でいくと、旧中銀前を歩くようになります。田井の郵便局のところと中銀前がありますが、小学校のすぐ前にはないんですけど。

保護者： 前日も荘内小学校のことをあげられて、路線バスを使ってますよっていうふうにおっしゃってたんですけど、荘内小学校を見たら荘内小学校前みたいなすぐ近くにバス停がある状態。しかも体育館っていうことは日差しも当たらないような涼しいところで待てるのかなっていう勝手に感じたんですけど。それだったら子どもたちも安全に登下校できるけど、その距離となると先生がずっと40分も50分も一緒にいてくれるのか。バスが来るまでずっと一緒に見てくれるのかっていうのがどういう感じになるのか気になります。

事務局： バス停を新規で設置するというのは難しいと思います。炎天下でバスが遅れたらということがありますが、こういった形で日よけのような対応ができるかということになりますので、そこは検討させていただこうかなと思ってます。それから、40分とか学校の先生が付き添ってもらえるのかという点ですが、そこまでの対応は難しいかなとは思いますが。

事務局： 今回、後閑小学校の再編を1年前倒しするということで説明させてもらっていますが、1年前倒しするということについてご意見はありますか。
(意見なし)

司 会： ここで、校長先生から学校の立場からご発言をお願いいたします。

学 校： さきほどから、もう再編した後の中学校候補について、いろいろ心配でご意見が出てましたけど、今日は私もいますので、今年、教頭が配置されなくて、なかなか厳しいってことで1年前倒しで再編という形にはなっている状況について、学校の責任者である私も話をさせていただきます。小規模で少人数でいいところもある反面、その人数があまりにも少ない状況で学校運営に支障をきたしている状況にある。教頭の仕事としては、学校を構えている以上あるわけです。そのあたりを限られた職員でカバーをしている。この11月末もう12月になりましたが、ここまで教頭がいないことを見据えて教職員、私も含めて一生懸命子どもたちのためによりよくこの1年を過ごしていくために頑張っておりますが、本音を申しますとなかなか厳しい。やらなくてはいけないものがたくさんある中で優先順位をつけてどうしてもしないといけないものを先にする。もっと余力があれば、こういうことが本当はできるだろうけどそこできないという形でやっています。そうやって教職員が力をあわせてやっているんですが、やはりどうしても苦しかったのは、校外学習の際に、引率する教員を教頭がいれば教頭先生にという話ができるのが、教頭1人いない中で、じゃあ誰がついていってくれるのか、1番困ったことです。例えば、1泊2日の海事研修も、担任1人が引率して行きました。去年まで教頭がついていったんですが、そこは担任1人でお願いっていうことと、一緒に合同で行きました他校の校長先生にも事情を説明してうちは教頭がいないことをご理解いただいて担任1人で行かせるのでよろしく願いますということをお願いもした。そこはそうやっていろいろ手を尽くしながらやっているんですが、本当に何かあったときに、管理職がいない状況で担任だけで判断させるっていうのが難しいですし、他校の校長先生にお願いするのも難しかったと思います。これまで何事もなかったからなんとか運営できている状況です。学校の校内でも管理職が私1人という体制の中、私が出張したり、休んだりしたときに管理職が不在のまま、なんとかみんなでやっている状況であります。本当に何か起こったときに誰が判断してすぐ手を打つかっていうところがやはり厳しい状況というのはお分かりいただけたと思うんですけど、それが今のところ何事もなく進んでいるので、ほっとしています。この状況が1年でも短くなるのであれば、私としては安心するところがあるので、1年前倒しでっていうところに関しては私はそのほうがいいだろうなと思います。子どもの安全面にしてもそうだろうなと思っています。その他にも学力や指導に関していうと、管理職がたった1人で教職員を指導するのも手が行き届かないというところはあるのが正直なところです。また、私自身に何かあったときに相談する相手がすぐそばにいないっていう危機感をいつも感じながらやっています。いろいろと教職員と知恵を出し合いながらやっているんですが、何度も教頭先生がいてくれたらなと思う

ことがあります。今年、保護者の方々に、参観日やいろんな行事に様々な支援をいただいている様子を見て、本当にありがたいなと思うのと、学校がとても大変なんだなということをご理解いただいていると思っているので、今日も「なんで1年前倒しなんですか」っていう意見が出るのではないかなと思いつつ、そういう声がでなかったのはもしかしたらそこを分かっていたからかなとこちらとしては思ったりもするんですが、少人数の複式で手厚くっていうのがいい半面もあるんですけど、複式学級の話でいくと、例えば、実際教育課程上3年生が4年生の学習をする年があるんです。去年まで2年生だった子が3年にあがって4年生の教科書を使って、習っていない漢字の教科書を見ながら、4年生の学習をするっていうことが起こっているのですが、それはやはり大変子どもたちは苦労しているし、教える側も苦労しています。その現実がどこまでおうちの方に伝わっていたか、伝えきれていなかったかもしれないですが、そういう状況があるので複式ってきめ細かく見てもらえていいよって単純に思われるのはちょっと不安であるということをお伝えします。その学年でその学年の相応の学習内容をするという意味では、複式じゃない学校で学ぶのが私は正常な教育課程だろうというふうには思っています。児童の人数が少なくても、難しい課題をものすごくカバーしてなんとかやっているという状況なんです。複式はいい面もいろいろあるんですが、やはり苦しいというか子どもたちにとってよりよい学習課程を考えると、複式では大変な面が多いということをお伝えしておきたいなと思っています。

事務局： 今後、再編に向けて、1年前倒しということになりますが、様々なご意見をいただく中で出来るもの出来ないものもあるとは思いますが、できる限りの対応は、市としてさせていただく予定であります。こうした前提のもと、再編を1年前倒しすることについてご意見ございますでしょうか。

保護者： 再編にあたって、すごく遠くなる家庭も増えると思うんですけど、交通の面で子どもたちを安心して送り届ける、学校に送り出してあげたいという保護者の気持ちもあります。ちゃんとお金を子どもたちに渡してシーバスに乗って大人と同じように払って降りてっていう判断をできる子じゃないといけないけれど、子どもがもしかしたら歩いて帰れると思ってしまって、歩いて帰ろうとした場合、結構信号機って少ないじゃないですか。危ない箇所が海沿いだしあると思うんですよ。何かあったときにも歩いて安全な道路というか、普通に歩いて安全な通学路っていう道だったらよかったのと思います。

事務局： これまで中学校の統廃合の説明会を開催させていただく中で、通学路の安全安心の確保は、重要な事柄ですので、保護者の方がいちばん気にされる部分

です。実際に、後閑小の再編につきましても、同じように皆さまのご意見を聴取したうえでできる限りの対応はさせていただく予定としてございますので、ご理解いただければと思います。

保護者： 鉾立は路線バスがないからスクールバスになってるわけではないですね。

事務局： シーバスは走っているのですが、ご存じのように小学校というのは帰りの時間が曜日によってまちまちだったり、学年によって帰の時間が違ったりっていうことがあって、そのすべてを小学校の時間割に合わせてシーバスを走らせてくださいということはできないので、スクールバスという形にさせていただいてます。本日説明させていただいたように後閑から胸上小だったり田井小に行くというのは、今の段階では、一応シーバスというご説明させていただいてますが、これから検討協議をさせていただく中で一番いい形の交通手段を検討していきたいというふうに考えております。

保護者： スクールバスがでなかったら、再編はしたくないと言ったらスクールバスはですか。

事務局： 「はい」、とお答えすることは難しいところですが、後閑小学校もそうですけれども、市内全域で学校再編を進めていく中で、今までも中学校の再編でいろんな方がたくさん参加して意見をいただく中で検討してきました。その中で大前提としては、シーバスとかの公共交通機関があるところは、まずそれを活用していただく。活用できるものがない場合はスクールバスっていう形とする。その前提で検討をしていただくっていうことで進めてまいりましたので、その考え方自体は、後閑小だけスクールバスを走らせるというような極端な形は難しいかと思います。

保護者： でも、鉾立はスクールバスがあるんですね。路線バスがあっても帰りがその時間帯がばらばらだけど、後閑小は、シータクを頼みますよっておっしゃってたんですけど、それは鉾立は適用せずに、こっちだけ適用するっていうのはちょっとなんか違うじゃないか。子どもたちがかわいそうだなと思います。あの子たちは待っているバスに乗って帰るのに、私たちは暑い中、待たないといけないんだっていうふうに思ってしまう。いいなって、涼しい中すぐに帰れるでしょってなるのが子どもたちがかわいそうなので、ちょっと声をあげさせてください。

事務局： 鉾立地区のバスの関係ですが、こちらのほうは人数の関係がありまして、シータクでは対応できる人数ではないというところでスクールバスを走らせた

という経緯がございます。実際には、時間帯に応じてシーバスを使うのかあるいはシータクを活用できる環境というところで、鉾立は人数の関係と説明しましたが、まさにそこを今検討しているところです。実際にできるかできないか含めて話をしているところでございます。ただ、このエリアは、実際問題として、この人数に対してスクールバスを走らせるっていうことはちょっと難しいといったところが正直なところです。

保護者： 鉾立はシーバスにみんな乗れないからスクールバスも出してるっていうことですか。

事務局： シーバス 1 台ではすべての鉾立地区の児童を乗せることができないので、じゃあ 2 周回してもらおうとかいろいろ協議をさせていただいたんですが、時間的な制約がありましてやはり同時に 2 台走らせることが必要だなということになりまして、スクールバスを導入するということになったんです。

保護者： 人数がどんどん減ってきたら、鉾立もいずれは路線バスになるっていうことでいいですか。

事務局： 人数がどんどん減ってきてっていうことであれば、市全体のスクールバスを活用する中で考えていくことになるので、今後ずっとスクールバスかどうかについては今の段階ではお答えできません。その時点で判断していかないとけないかなと思っております。

保護者： バスの件で、子どもが乗り降りしやすいようなシステムというか、今後どうするか。子どもだけで乗るっていうことが発生するので。

事務局： 実際、子どもさんがバスに乗るときに 1 回 1 回お金を払うっていう仕組みではなく、例えば定期券みたいなものを見せたら乗車できるような仕組みを考えております。お金を持たせるようなかたちでは今のところは検討しておりません。

保護者： もし定期券なくしたとかだったらどうでしょう。

事務局： なくしたということは、学校にすぐ届け出ていただく必要があります。明らかに小学生というのは分かりますので、そこについてバス会社さんのほうには臨機応変に対応していただきたいと思っております。

保護者： 以前聞いたときに、班で帰るっておっしゃったじゃないですか。下校班で帰

らせるってということなのか。安全対策ってということでおっしゃったと思うんですけど、高学年と低学年で帰る時間って違うじゃないですか。そういうのも考えているのか。

事務局： 小学生は1年生は早く帰るとか2・3年生は1時間後とかいろんな時間帯に児童が帰られるような時間割になっていますので、それをきちんとカバーできるような交通手段っていうのを検討しているところです。

保護者： 警察の方に午後の時間帯に立っていただくとか見回りとか。地域の方のボランティアは午前中だけとかかもしれないけど、帰りがやっぱりいちばん心配かなっていうのがあって。子どもがバスで帰ったけど歩いてそのあとどうなったか分からない、そこがすごい不安に感じます。

事務局： シーバスの場合、バス停は、ゴルフ場の前あたりにバス停があるんですけど、通常、学校から歩いて帰られるときとバスを降りたあとは同じかなというふうには考えております。現在、警察の方は、学校の付近に立っておられるのでしょうか。

学 校： 通学班は、朝、中央公園で子どもたちが集まってきたら、大きな道路を渡る。その横断歩道を渡るのに朝ボランティアの方が1人立ってくださっています。今年はお仕事を辞められて楽になったので、朝、学校の下のところまでついて送って行けるよと言ってくださって付き添ってくれています。帰りは子どもだけで帰っています。例えば2年生の2人が中央公園のところまで自分たちで帰ってそこで解散っていう状況ですから、バス停がそこにあるのであればそこでバスを降りて中央公園で解散なので、まったく今の状況と変わらないし、逆に歩く距離は今よりも短いと思います。他の学校では、バス停までの距離がどのくらいか分かりませんが、今よりは歩かないのかなと思うくらいです。

事務局： 田井小学校のところには、警察の方が朝ほぼ毎日のようにきてくださっているというのはお聞きしておりますし、胸上小学校の方も警察の方が朝、校門の辺りで見守りをさせていただいてるので、そういった形で警察にもご協力いただいております。

保護者： タクシーに乗ることもあるんですか。バスのように時間を気にしないでも、タクシーだったら時間に縛られないし、タクシーもいいんじゃないかなと思います。

事務局： 今現在、行きと帰りの時間帯があるんですけども、それぞれの時間帯において利用していただくのは基本的にはシーバスいうかたちになりますけれども、例えば帰りの時間が早いとか遅いという場合はタクシーを利用というのを視野にいれて考えてございます。

保護者： 行きはタクシーではないのか。

事務局： もちろん、時間帯によっては行きも同じ形になります。

保護者： バスが一応基本でとらえてるということですか。

事務局： 今の段階では路線バスで時間がどう調整できるかを踏まえたうえの検討となりますが、時間帯等により調整が難しいとなりますとタクシーの利用っていうかたちになると思います。

保護者： あくまでもバスが一番で、それでもダメならタクシーということか。

事務局： そうです。

保護者： それは何ですか。

事務局： 再編するにあたって、基本的にスクールバスを走らせるルールとして、まずは路線バス、シーバス。それができない場合にはスクールバスとかタクシーという形になろうかと思います。タクシーかスクールバスについては、人数の関係とかもあったりしますので、そういったところで段階的に検討していく形になると思います。

保護者： 子どもの安全を一番に考えてもらいたい。だったらやっぱりバスで行くよりはシータクの方がよい。シータクだったら事前に予約っていうのができる。

事務局： 今は一応シーバスという形でご提示させていただいてますが、いろいろ諸条件を検討した結果もしかしたらタクシーっていう選択肢もあるということです。

保護者： じゃあぜひシータクで。

保護者： 一番は子どもの安全を考えて。

事務局：　そうですね。

保護者：　今の現状で、小学生がバスに乗って行くというのはちょっと厳しいかなと思うんですけど。

事務局：　小学生がバスに乗ってっていう実績がすでにありますので、そういったところも踏まえて路線バスがあれば路線バスっていうことを最初に考えるというところです。

保護者：　実績というのは。

事務局：　例えば、荘内小学校区の東紅陽台や東高崎、あとは二日比小学校区の渋川からの通学に関しても小学校１年生の段階からバス通学ということが実績としてあります。そういったところも踏まえて、まずは路線バスがあるところは路線バスから考えましょうという形です。あとは、時間割とか諸条件とかそういったところを総合的に検討しているところです。今日いろいろご意見をいただいておりますので、通学に関しては、都度、相談させてもらいながら検討したいと思います。

保護者：　１年生では、担任の先生や学校の先生が学校から公園まで送ってくれたっていうのはもうなくなるっていうことですか。バス通学になった途端それは切るっていうことになるんですか。今後そういう子どもたちだけで帰ってねということになるっていうことですか。

事務局：　学校とも相談する必要があるんですが、鉾立地区に関しましては、４月の最初の１週間程度は、慣れるまで先生が同乗して登校したというようなことがありますので、学校と相談しながらそういったことが可能であればそういう対応も検討したいと思ってます。

保護者：　胸上小学校に支援学級を設置する予定で、県へ要望っていうのは、噂で聞いたら２年ぐらいは要望してから許可がでるまでにかかるって聞いたんですけど、すでに県へ申請を終わっていて、令和９年には確実に知的の支援学級が設置されるっていうことであってますか。

事務局：　胸上小への知的学級の設置については、方向性が決まれば、すぐに、県に伝えて、実際にこれだけの人数の児童が胸上小へ行く可能性があるということをは伝えたくて、設置にむけてしっかり要望をあげていきます。可能性として現段階で後閑小にいる児童が知的学級が必要という状況ですので、具体的

な状況で県も判断される。これまでの設置とは全く状況が違いますので、そのあたりは9年度の設置にむけてしっかり県に要望あげてそれを実現させるということで動いていきます。

保護者： 9年には必ず知的の支援学級ができるから、今行かれている方も安心して胸上小に行けるっていう認識でいいですか。

事務局： しっかりそういった環境を整えるようにやっていきます。

保護者： 胸上小では、知的と自閉情緒のどちらが出来るのか。後閑小のクラスで慣れたのに胸上小での学校生活が送れるのか。支援学級について、後閑小は後閑小の子だけで一緒に一つのクラスとすることはできないのか。

事務局： 支援学級については、知的の学級、自閉情緒の学級というふうに分かれて全く違う学級になります。もし、自閉情緒の学級であれば後閑小の子も胸上小の子も一緒に自閉情緒の学級で学ぶということになります。知的のほうも胸上小に通っている児童の中で知的全員がそこに入ることになるので、どこか別々にということにはならないです。知的と自閉情緒というそういう学級の分け方になります。

保護者： それは、希望してもダメなのか。

事務局： 希望というのは。

保護者： 胸上は胸上で。

事務局： それは胸上小学校に支援学級知的の学級が1クラス、2クラス、これは人数に応じて学級は決まるので、希望で分けることはできないです。

保護者： 今のメンバーで安心して通ってるのに、増えたりしたらそれがちょっと。

事務局： 支援学級も通常学級も一緒なんですけど、新たに胸上小に行って不安な思いがある。そういった児童も当然いると思うので、支援学級であろうが通常学級であろうが安心して新しい学級で生活できるようにしっかりそのあたりは支援をしていきます。特に支援学級は環境の変化というのは大きいと思うので、そのあたりもしっかりフォロー、支援をしながら進めていきたいというふうに考えています。

保護者： 今は、少人数なのでとりあえず通常通りの学級で勉強してるけど、知的とかそういうのに欠けている部分があって、通級に通いながら通常学級に入ってる子がいると思うんですけど、そういう子たちはどうなるんですかね。多くなったら多くなったら子どもたちが大変だと思う。そのへんがどうなるか。もうそのまま通常学級に入って通級に通うのか。大人数の中に入ったら対応できなくて支援学級に入っていくようになるのか。そのあたりはどうなるのか。

事務局： そのあたりは、それぞれの児童の個の状況に応じてということで通常学級に在籍して通級教室へ行くという子もいると思います。そのあたり、相談しながら個に応じてどういった環境でどういった生活を送るのがいいのかというところも相談しながら進めていきたいというふうに思います。いずれにしてもやはり支援体制というところは考えていきたいと思っています。少しでも安心して通えるような環境づくりこれは一番必要だというふうに個人的には思います。